

世界一危険な航空機「MV22 オスプレイ」

岩国基地陸揚げ阻止行動・さらに沖縄への配備阻止に向けて！

「リムピース」共同代表・岩国市議 田村 順玄

毎年5月5日の「こどもの日」、日米親善デーと称して米海兵隊岩国基地が開放される。1年でたった1回だけ一般市民が入場が許されるこの日、岩国基地へは全国から多くの人々が訪れる。2012年の5月5日、今年の日米親善デーには実に28万人の人が入場したと基地側の発表があった。

私が世話人をしている「ピースリンク広島・呉・岩国」と「リムピース」のメンバーは共同し、毎年、入場者に反基地を訴えるチラシを配付し街頭宣伝を行っている。今年は、裏面に展示される航空機を凶示した反基地を訴えるビラは好評で、用意した3000枚余は一時間もかからず配付を終えた。

厚木からの艦載機移転によって、1・4倍に拡張された滑走路が沖合1キロメートルに移転しても爆音被害の軽減にはつながっていない現実を、市民はよく知っている。ところがこの日ばかりは、日米親善一色で私たちの訴えもシックリとは伝えきれない。それでも、私たちの「蜂のひと刺し」の如きこうした行動にエールをおくる人々の姿もたくさんいて、勇気が湧いてくる。

ひとりだけ基地入場を拒否された私

その28万人が入場する基地開放行事に、たったひとりだけ、米軍から入場を拒否された市民がいた。それは私・田村順玄である。

昨年9月に開催された海上自衛隊の公開行事の際、基地内に入場した直後に自衛隊から退出を求められ、3時間ものすったもんだの末に退出を余儀なくされた。米軍に間借りしている海上自衛隊が米海兵隊側から「田村順玄の入場を認めない」という達しがあることが理由だった。

さて今年の基地開放で私はどのように扱われるのか。ビラ配付行動にさきがけて米軍側の動きを確かめるために実験を試みた。取材のマスコミ各位も多数同行し、何千人もの入場者でごった返す入場門を10分以上かけて入口に近づく。ところが米軍敷地にかかったとたん十人をはるかに越える警備要員に取り囲まれ、その位置から入場を阻止された。身分の確認もしないのに、「田村さんの入場を米軍は拒否します」という趣旨の通告で理由の説明もしない。

後日、私は米連邦政府の情報公開制度である「FOIA」の手続きで、入場拒否に至った関係書類の開示を求めた。1ヵ月後、米軍FOIAの担当部局から届いた書類には拒否の理由はいっさい示されておらず、「米軍側は入場を拒否することが出来る」という数行の文字が書いてあっただけだ。

結局、20年近く在日米軍の秘密をあばき続け活動を続けている「リムピース」は、目の上のコブであるという米軍の本性を見た、今年の日米親善デーのひとこまであった。

岩国基地沖合移設と絡んだオスプレイ配備